



▲ 企業理念



▲ 日本初にして唯一のニッケルすずめつき自動加工ライン



▲ 内海工業(株)保有最大の400tプレス加工機

既成概念にとらわれない変革で 新たな顧客開拓に挑む



内海工業株式

たかひろ
福井崇洋さん

ないかい
内海工業株式会社 代表取締役
(水島信用金庫 本店)



水島臨海工業地帯にある内海工業(株)は、自動車部品中心の製造加工体制から脱却し、業績向上をめざす「変革」に挑んでいる。2017年に代表取締役に就任した福井さんに、事業の現状と今後の展望について伺った。

技術力と提案力で メーカーに独自提案

■ 事業の概要を教えてください。
自動車および農機具用部品、建築材料などの金型の設計・製作から、プレス加工、スポット溶接・めつき加工までを一貫体制で行っています。部品1個のめつき加工から、「プレス加工だけ」という部分的な受注まで柔軟に対応。また、ISO14001・ISO9001認証を取得し、環境に十分配慮したうえで、安定した品質の製品をお届けしています。

■ 業績を支えている特色を教えてください。
防錆効果のある亜鉛めつき加工のほか、アルミ用のニッケルすず

めつき加工を行っています。ニッケルすずめつき自動加工ラインがあるのは、日本では当社だけ。金属加工業で、めつき加工まで自社で行う企業は珍しいと思います。また、銅をアルミに換えることで軽量化およびコスト低減を図りたい分野のメーカーに、技術力を活かした独自の提案をしています。

■ ほかにも独自の事業提案はありますか？
近年、後継者不足、コストの問題などから小規模のプレス加工事業所が減少しています。さらに、ひとつの事業所では受け入れきれず、数力所に発注を振り分けなければならぬケースも多々あります。当社が窓口になり、近隣のプレス加工協力会社と連携して受注することで、工期短縮、コスト削減、品質保証などを実現しています。

■ また昨年は、金型の設計・製作の内製化を進めるために、最新式マシンングセンターを導入。さらに効率的な生産体制を整えました。
「当初はプラント製造を手がけていましたが、やがて増産を図る大手自動車メーカーから声がかかり、サプライヤー(仕入先)としてプレス加工を始めました」
国内有数の自動車メーカーの仕入先となったことで展望が開けた同社は、土地を追加購入してはプレス工場、自動倉庫などの機械設備を整え、業績を伸ばしていった。89年には父・清さんが二代目社長に就任。堅実な経営で、バブル崩壊にも影響を受けることはなかったという。
「ただ、91年から2年間、会社規模が小さいという理由でサプライヤー指定から外れたことがあると聞きました。復帰できたのは、当社の迅速な対応力を改めて評価されたこと。いまも、受注・生産とも、スピーディであることを大事にしています」

既成概念にとらわれない
自由な発想力を尊重

■ めつき事業は大量の水を使いますが、排水処理ではどのようなことに留意していますか？
倉敷市の河川下水処理水規制値を遵守し、日々、ヒューマンエラーの防止に尽力しています。また、廃液処理後の水はその一部をめつき加工に再利用し、薬剤のリサイクルもリサイクルするなど、省資源、省エネルギー、産業廃棄物削減に努めています。

■ 従業員の採用・育成の方針を教えてください。
当社は、既成概念にとらわれない自由な発想力のある人材を求めています。また経営者は、どのような小さなアイデアでも、しっかりと考え提案する姿勢を評価することが大切。そのため、仕事の改善につながる提案の募集制度(社長賞、次長賞、特別賞)を設け、毎月多くの従業員を表彰。提案し続けるという積極的な姿勢を人事評価にも反映しています。

■ 企業理念を教えてください。
設立から58年。「信頼と協調、自然を愛し、人を愛し、仕事を愛する」を会社の方針としてきましたが、代表就任から3年が経過し、当社が新しい時代に再スタートして魅力ある企業へと変革していくため、本年より企業理念を「respect for...」と制定しました。「リスペクト・フォー・○○」とは、○○は従業員・協力会社・取引先・家族などを指します。まわりのすべての人を大事にするという尊敬の念を忘れないこと。コンプライアンスに力を入れて、信頼される企業を目指し、倉敷市・水島の発展に貢献すること。そして企業を存続させ社員を幸福にすることで、企業価値の向上を実現したいと考えています。

大手自動車メーカーの サプライヤーとして成長

■ 内海工業(株)の創業は1957年。福井さんの祖父・進一郎さん(名古屋出身)が、第二次世界大戦中、三菱重工業(株)の水島航空機製作所で零戦製造に携わった経験を活かし、

※工具の迅速な交換機能を備えた工作機械



▲ 設立当初の本社



▶ OTEX2019の
出展ブース。小
型機でプレス加
工を実施し注目
を浴びた



▲ (株)バイストン社と共同開発したカードク
リップ(名刺入れ)

職を決めていた。

ところが、95年に阪神・淡路大震災が起こり、内定は白紙になり帰郷。「知り合いを亡くし、気持ちの整理もつかない状態」のまま、内海工業(株)のアルバイトとして1年を過ごした。

事業体制を見直し

OTEX出展で活路を開く

そんな福井さんに、父・清さんが与えた仕事は、それまで手作業で行っていたカシメ(加工部品どうしをつなぎ合わせる工法)の自動化。専用機を独自設計し、次々と届く部品の組み立てにチャレンジした。「何の知識もなかったけど、人の助けもあり、時間も忘れるほど夢中になって完成させました。そ

ちょっとインタビュー



中川善之さん
(生産技術課課長)

太陽光発電用パネルのシリコン加工を行う会社の工場が閉鎖となり、当社に転職。7年になります。生産技術の知識はありませんでしたが、当社OBが先生となり、5年間つきっきりで金型製造の指導をしてくださいました。その方の、70歳を過ぎてもつねに新しい情報を吸収し、勉強を怠らない姿勢を、今後もお手本にしていきたいと思っています。金型製造の技術者は不足しており、その貴重な技術を身につけられることは、大きなよこび。指示される前に考えて行動するという強い意志で仕事に臨んでいます。

内海工業株式会社 PROFILE

所在地:岡山県倉敷市南畝5-14-21
TEL:086(455)8300
FAX:086(455)1507
http://www.naikai-kogyo.co.jp



れが大きな自信となり、『震災さえなければ...』という気持ちを吹っ切ることができました」

次に福井さんは、めつき加工の専用機をメーカーに発注し、工場のラインに導入。当初は故障が続いたが、カシメ専用機製造の設計

技術を応用し自社で修理するなど、メーカーに依頼する回数も徐々に減り、ついには内製化を実現した。しかし、めつき事業は市の許可だけでなく、地域住民の合意が必要。「町内会長にお願いに行くと、『いままで迷惑をかけられたことがないから信用する』とご了承いただき、97年にめつき部門を立ち上げることもできました。検査や品質管理の徹底はあたりまえのことですが、この信頼を決して裏切つてはいけなさと肝に銘じています」

しかしその後、取引先の経営不振、リーマンショックが業績に多大な影響を及ぼす。業績が回復しないなか、福井さんは2017年、三代目の社長に就任。5カ年計画で財務管理の見直しを図るとともに、「変革」をテーマにした事業体制の見直しに取り組んでいる。「自分たちがほんとうにやりたい仕事を探すことから始めようと考え、18年、19年とOTEX(おokayamaテクノロジー展)に出展。福祉の分野で新たな顧客を開拓することができました」

OTEXでは、地元の(株)バイストン社と共同開発した倉敷帆布のカードクリップ(名刺入れ)なども評判に。部品加工の概念にとらわれないう発想で、経営改革に邁進している。